



◆其の百二十三

金色に込められた祈り

金色にまばゆく輝くこの仏像は、大字柚須原のお堂に安置されていたものです。堂内の薄暗がりの中で浮かび上がる金色の姿は、地域の人たちの信仰心をかきたてたものと思われます。

仏像が金色なのは、仏の身体が金のように光り輝くとされる金色相（こんじきそう）という思想を表すためです。これは、仏がもつ32種類の身体的特徴（三十二相）の一つで、ご利益のある存在であることを示しています。

柚須原の仏像は、CTスキャンにより光背に年号が彫られていた



▲柚須原の木造聖観音坐像（もくぞうしょうかんのんぞう）

問文化財課

ことと仏像の時代的特徴を表す造形がはっきりと透視できたことで、今から約700年前に造られ、これまで何度か塗り直されていたことが分かりました。仏像は表面の色があせたり剥落したりすると、塗り直されることが一般的であり、金色に輝く状態を維持することは、信仰をつなぐ営みでもあります。つまり、信仰を受け続けてきたからこそ、今もなお金色に輝いているのです。

この像は現在、保存のため歴史博物館に保管されていますが、本来の場所を離れても地域の信仰の歴史を今に伝える存在であることに変わりはありません。

